第５講　形容詞・形容動詞・音便

PART１　形容詞

形容詞

性質や**状態**を表し、終止形が「～　　」となる。

★活用の種類

「ク活用・シク活用」

※見分け方＝「**なる**」をつける。「～**く**なる」＝**ク**活用、「～**しく**なる」＝**シク**活用。

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
活用	白し	白						
			から	かり	○	かる	○	かれ
活用	をかし	をか	しく	しく	し	しき	しけれ	○
			しから	しかり	○	しかる	○	しかれ

※「　　　」には、基本**下に助動詞**がつく。

問八　次の傍線部の活用の種類と活用形を答えよ。

① ましてやすからず。

② はかばかしき(a)後見しなけれ(b)ば、…

a＝

b＝

③ 散ればこそいとど桜はめでたけれ。

④ この妻の心憂きこと多くて、…

⑤ いかばかりあやしかりけむを、…

⑥ いみじく(a)心もとなき(b)ままに、…

a＝

b＝

問九　次の空欄A、Bそれぞれに、形容詞「いみじ」を最も適当な形にして入れよ。

「[A]牛の力かな」

「[B]求めさせ給へば、…」

A＝

B＝

★形容詞の語幹用法→「訳し方」を覚える

●和歌中　Ａ（を）Ｂみ　＝「ＡがＢなので」

（例）瀬をはやみ＝川瀬の流れが速いので

●あな（「あら」もしくは「単独」）、語幹。＝「ああ、〜。」

（例）あな、かま。＝（ああ、やかましい。→）しぃっ、静かに。

※形容詞「かまし」（ク活用）はシク活用説もありますが、本講座では「あなかま」の「かま」はク活用の語幹説で説明しております。
　二つある説ですから、ここでは「かまし」の活用の種類よりは、重要な「あなかま」の訳し方をおさえましょう。
　そのときに、「かま」＝「かまし」がわかると、訳が思い出せるはずなので便利です。

●語幹＋の＋体言（や）。＝「〜の体言だなぁ。」

（例）をかしの御髪（みぐし）や。＝美しい御髪だなぁ。

問一　「空寒み花にまがへて散る雪に…」の傍線部を現代語訳せよ。

問二　「あな幼や。」を現代語訳せよ。

第5講　PART1　確認問題

①　空欄には、「はかなし」が入る。適切な形にしたものを、次の中から一つ選べ。

「末までと契りおくこそ［　　］。」

ア　はかなし　イ　はかなき　ウ　はかなかる　エ　はかなかり　オ　はかなけれ

②　傍線部について、活用の種類・活用形の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選べ。

「せむ方<u>なかり</u>ければ、…。」

ア　ク活用・連用形　イ　ク活用・已然形　ウ　シク活用・終止形　エ　シク活用・連用形

③　空欄には、「悲し」が入る。適切な形にしたものを、次の中から一つ選べ。

「起き別れなむことぞ［　　］。」

ア　かなし　イ　かなしき　ウ　かなしかる　エ　かなしかり　オ　かなしけれ

④ 傍線部の現代語訳として、適切なものを次の中から一つ選べ。

「秋の田の　かりほの庵の　苫をあらみ　わが衣手は　露にぬれつつ」

ア　苫があらい　イ　苫があらいだろう　ウ　苫があらいので　エ　苫があらくなる

⑤ 空欄には、「めでたし」という形容詞が入る。「ああ、すばらしいことだ。」という現代語訳になるよう、適切な形にしたものを、次の中から一つ選べ。

「あな［　　］や。この獅子の立ちやう、…。」

ア　めでたく　イ　めでたき　ウ　めでた　エ　めでたし

第５講　ＰＡＲＴ１　解答

問八　①　ク活用・未然形　②　ａ　シク活用・連体形　ｂ　ク活用・已然形
③　ク活用・已然形　④　ク活用・連体形　⑤　シク活用・連用形
⑥　ａ　シク活用・連用形　ｂ　ク活用・連体形

問九　Ａ　いみじき　Ｂ　いみじく

問一　空が寒いので

問二　ああ、幼いなあ。

第5講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 文末なので、上を見て係助詞の有無を確認。**「こそ」があるので已然形**にする。よって、オが正解。

② 「ない」という状態で、現代語で「〜い」で終わるから形容詞。古語での基本形は「なし」。「なくなる」となるので、ク活用。「けれ」＝「けり」だが、未学習のため「活用の仕方」で考える。「〜かり」は連用形。

③ 文末なので、上を見て係助詞の有無を確認。**「ぞ」があるので連体形**にする。選択肢の中で連体形は、イかウ。下が助動詞ではないため、正解はイ。

④ 形容詞の語幹用法は「訳し方」を覚える。**「A（を）Bみ」＝「AがBなので」**と訳す。よって、ウが正解。

⑤ 形容詞の語幹用法は「訳し方」を覚える。**「あな（「あら」もしくは「単独」）、語幹。」＝「ああ、〜。」**と訳す。「めでたし」の語幹は「めでた」であるため、正解はウ。

〔解答〕

① オ　② ア　③ イ　④ ウ　⑤ ウ